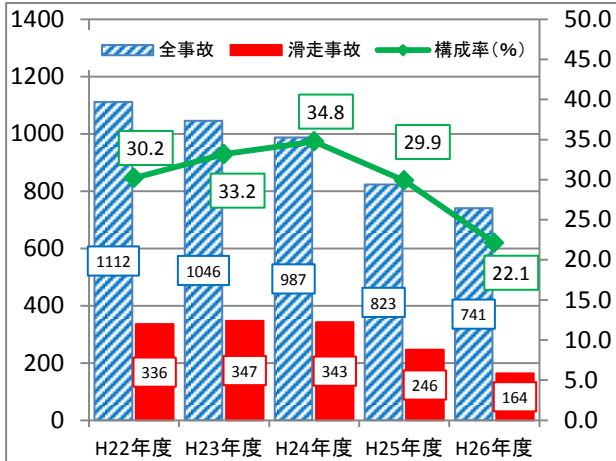


◎ 滑走事故の年度別・月別の発生状況

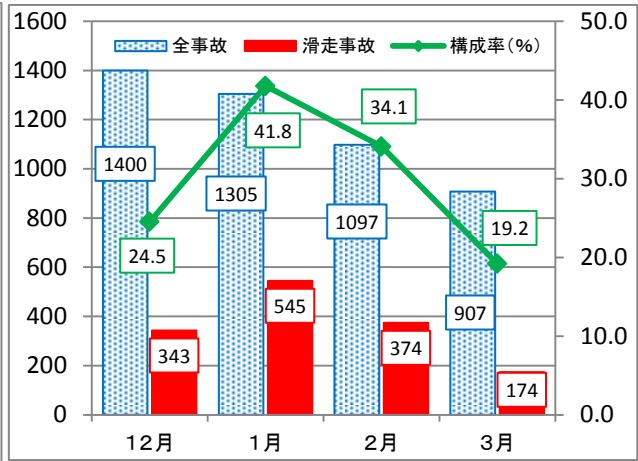
過去5年間の冬期間における交通事故発生状況を年度別に見ると、平成24年度までは、全事故の約3割を占めていたが、ここ2年間は、事故発生件数及び全事故に占める滑走事故の割合は減少傾向にある。

月別の発生状況で見ると、全事故は12月中の発生が最も多いが、滑走事故は1月中の発生が最も多く、構成率も1月中が最も高い割合となっている。

【滑走事故の年度別発生件数】



【過去5年間の滑走事故月別発生件数】



◎ 路線別の滑走事故発生状況

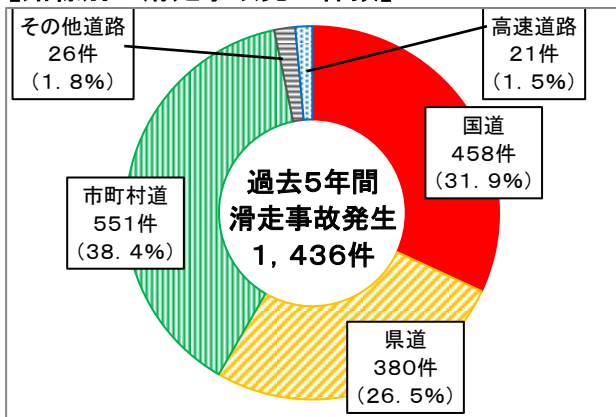
○ 全体

各路線別の滑走事故発生状況を見ると、最も多いのは市町村道の551件（38.4%）であり、次いで国道の458件（31.9%）である。

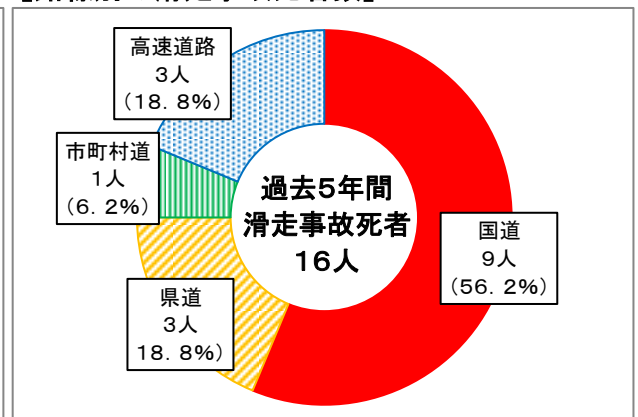
滑走事故による死者数で見ると、国道が9人（56.2%）と最も多く、次いで県道及び高速道路の3人（18.8%）である。滑走事故発生件数では最も多い市町村道での死者は1人（6.2%）であり、全体的に幹線道路での発生が多くなっている。

各路線の全事故に占める滑走事故の割合は、全体では30.5%であり、国道・県道・市町村道がそれぞれ30%以上を占めている。

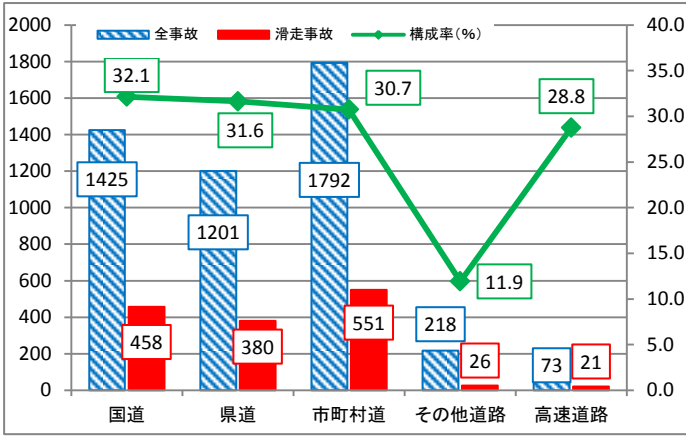
【路線別の滑走事故発生件数】



【路線別の滑走事故死者数】



【各路線の滑走事故発生割合】

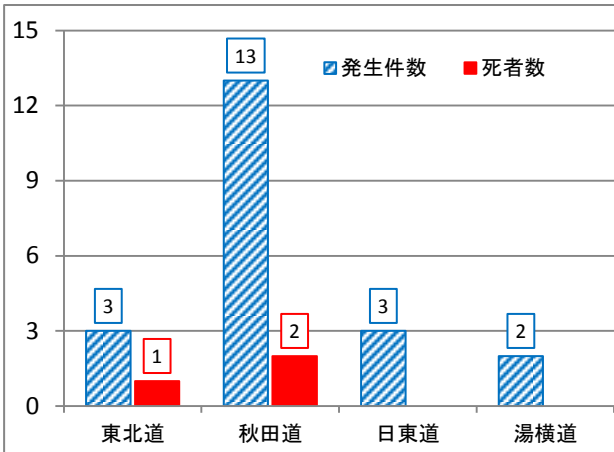


※ その他の道路～農道、港湾道、駐車場内等
 ※ 高速道路～自動車専用道路を含む

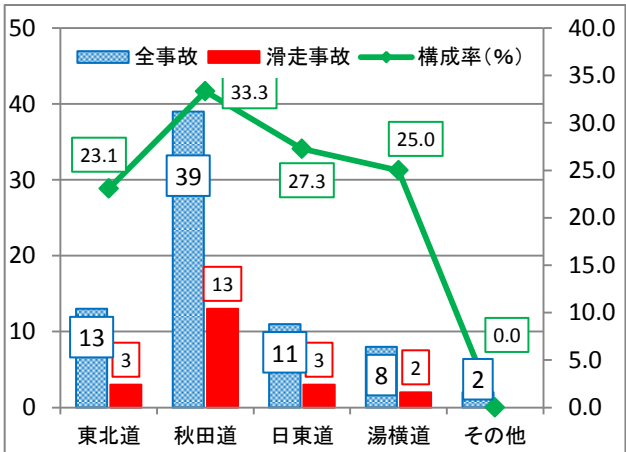
○ 高速道路の路線別

高速道路（自動車専用道路を含む）の滑走事故発生状況は、秋田自動車道における発生及び死者数が最も多い。
 全事故に占める滑走事故の割合でも、秋田自動車道の割合が最も高い。

【高速道路の滑走事故発生件数】



【高速道路の滑走事故発生割合】



※注

- ・ 東北道～東北自動車道の岩手県境から青森県境までの間
- ・ 秋田道～秋田自動車道の岩手県境から二ツ井白神ICまでの間(区間内の指定自専道含む)
- ・ 日東道～日本海沿岸東北自動車道等(河辺JCTから象潟ICまでの間)
- ・ 湯横道～湯沢横手道路(横手ICから雄勝こまちICまでの間)
- ・ その他～上記以外の自動車専用道路

◎ 道路形状別の滑走事故発生状況

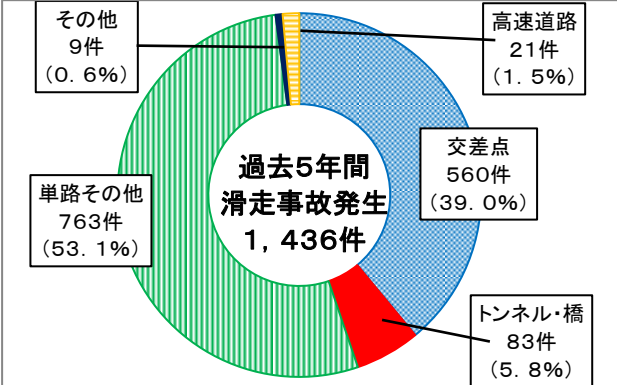
○ 全体

道路形状別の滑走事故発生状況を見ると、単路その他の763件（53.1%）であり、次いで交差点の560件（39.0%）である。

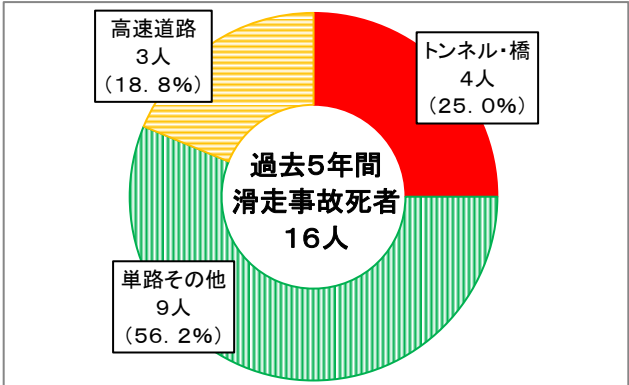
滑走事故による死者数で見ると、交差点における死者はないが、単路その他が9人（56.2%）と最も多く、次いでトンネル・橋の4人（25.0%）である。トンネル・橋や高速道路における滑走事故発生件数は少ないが、死者数で見ると、全体に占める割合が高くなっている。

道路形状別で全事故に占める滑走事故の割合を見ると、トンネル・橋における発生件数は少ないものの、滑走事故発生の割合は高い割合を占めている。

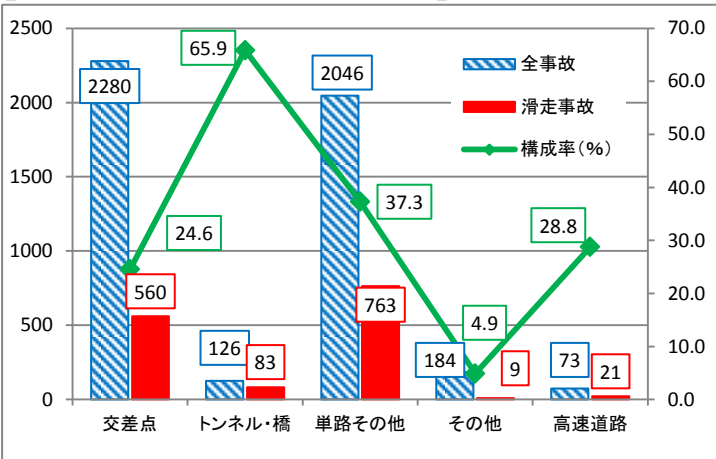
【道路形状別の滑走事故発生件数】



【道路形状別の滑走事故死者数】



【道路形状別の滑走事故発生割合】

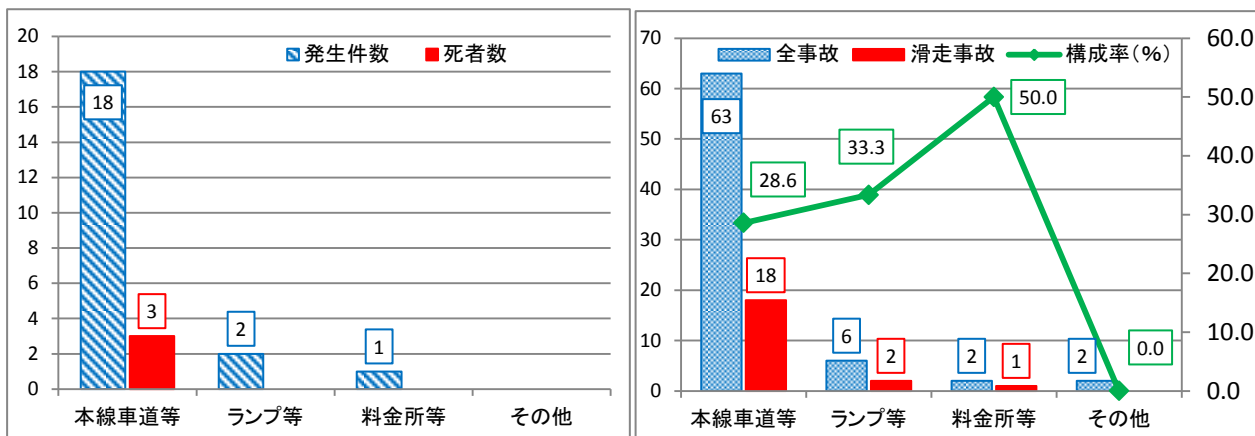


※注

- ・ 交差点～交差点内及び交差点付近（交差点の側端から30メートル以内）をいう。
- ・ 単路その他～トンネル・橋以外の直線・カーブなどの道路をいう。
- ・ その他～交差点、トンネル・橋、単路その他以外の道路（駐車場など）をいう。

○ 高速道路の道路形状別

高速道路（自動車専用道路を含む）の道路形状別の滑走事故発生状況は、本線等における発生が最も多く、死亡事故は全て本線上である。



※注

- ・ 本線等～高速道路及び自動車専用道路の走行車線と追越車線のほか、路肩を含む。
- ・ ランプ等～ランプウェイ、ジャンクション、加速及び減速車線をいう。
- ・ ～日本海沿岸東北自動車道等（河辺JCTから象潟ICまでの間）
- ・ 湯横道～湯沢横手道路（横手ICから雄勝こまちICまでの間）

◎ 道路線形別の滑走事故発生状況

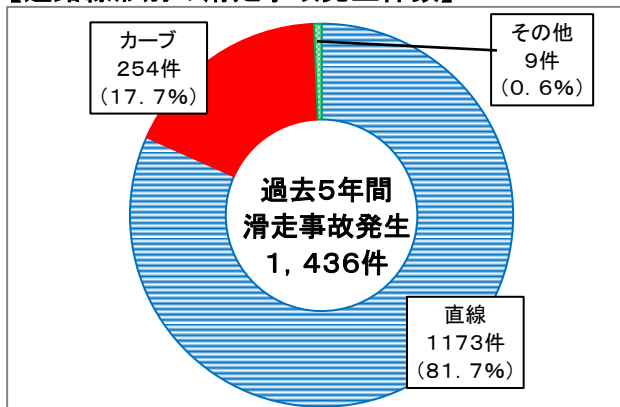
○ 全体

道路線形別の滑走事故発生状況を見ると、直線道路での発生が1173件（81.7%）と大半を占めている。

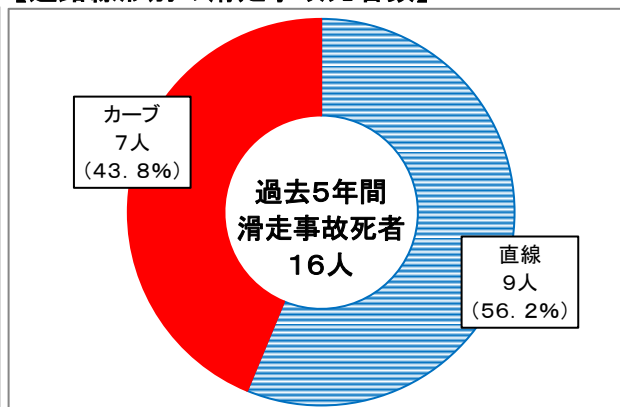
滑走事故による死者数で見ると、直線道路における死者が9人（56.2%）と半数以上を占めているものの、発生件数では2割に満たないカーブにおける死者数の割合が高くなっている。

道路線形別で全事故に占める滑走事故の割合を見ると、カーブにおける発生の6割以上が滑走事故と高い割合となっている。

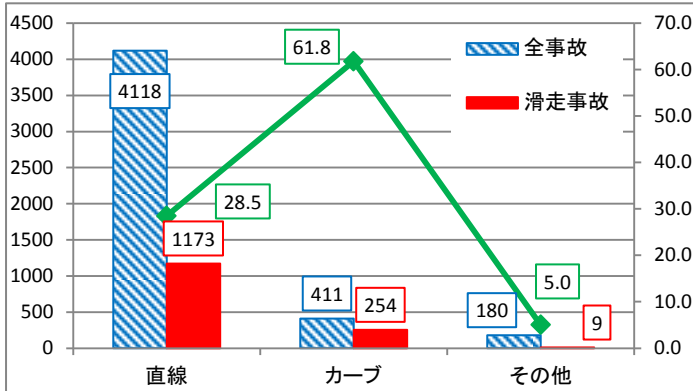
【道路線形別の滑走事故発生件数】



【道路線形別の滑走事故死者数】



【道路線形別の滑走事故発生割合】



※注

- ・ 直線及びカーブは、国道、県道等の道路における発生を集計。
- ・ カーブ～左カーブ及び右カーブ、屈折(直角に曲がっている道路)をいう。
- ・ その他～駐車場内などをいう。

◎ 事故類型別の滑走事故発生状況

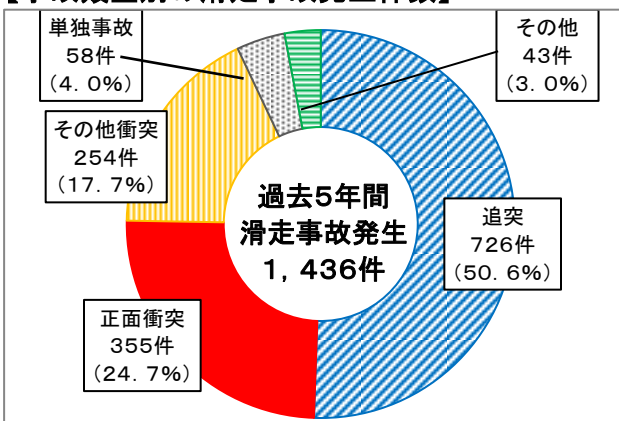
○ 全体

発生件数については、追突が726件（50.6%）と最も多く、滑走事故全体の半数以上を占めている。次いで正面衝突が355件（24.7%）であり、これら2つ以外の衝突（出会い頭、接触等）は254件（17.7%）となっている。

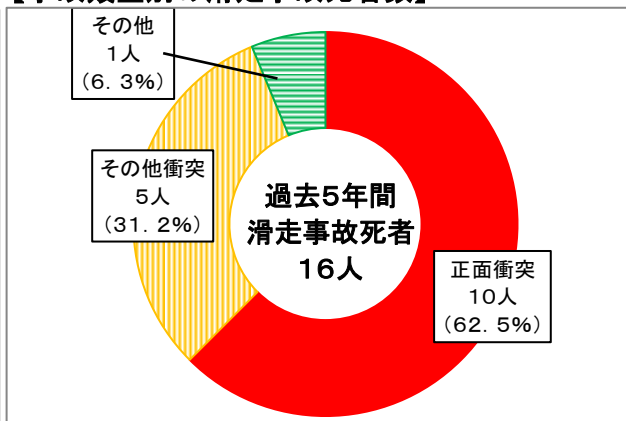
滑走による死者数は、発生では最も高い割合を占めていた追突による死者はなく、正面衝突が10人（62.5%）と全体の半数以上を占めている。

事故類型別で全事故に占める滑走事故の割合を見ると、正面衝突が約7割と高い割合を占めている。

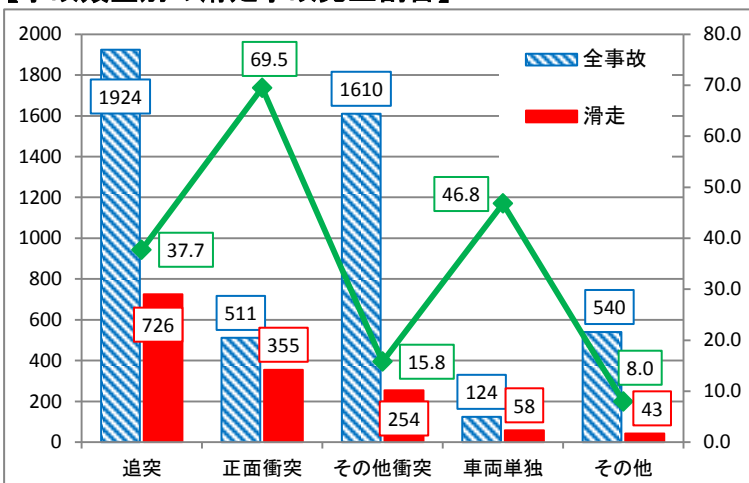
【事故類型別の滑走事故発生件数】



【事故類型別の滑走事故死者数】



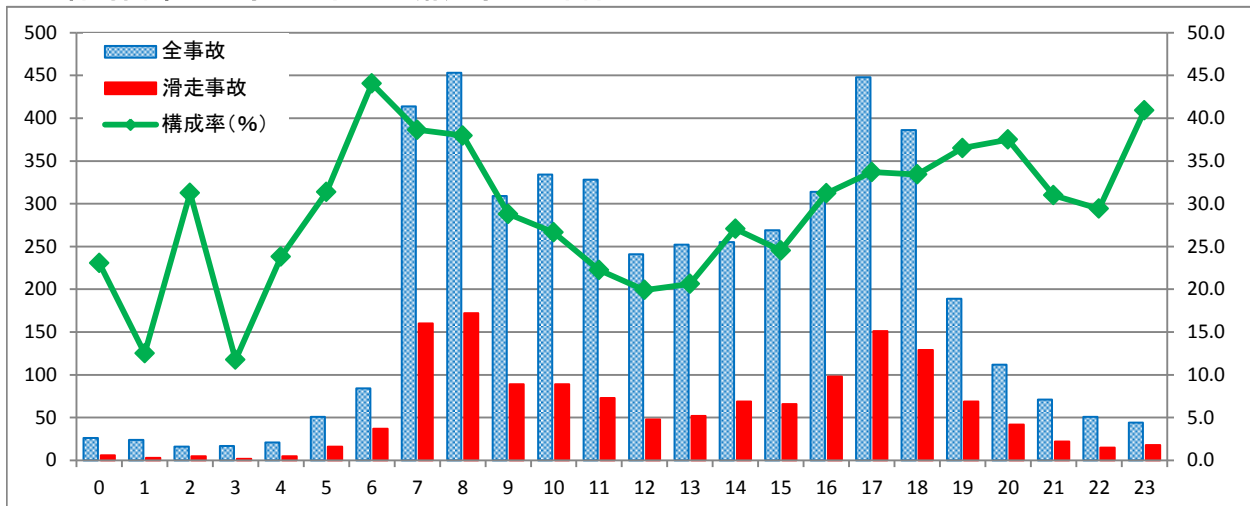
【事故類型別の滑走事故発生割合】



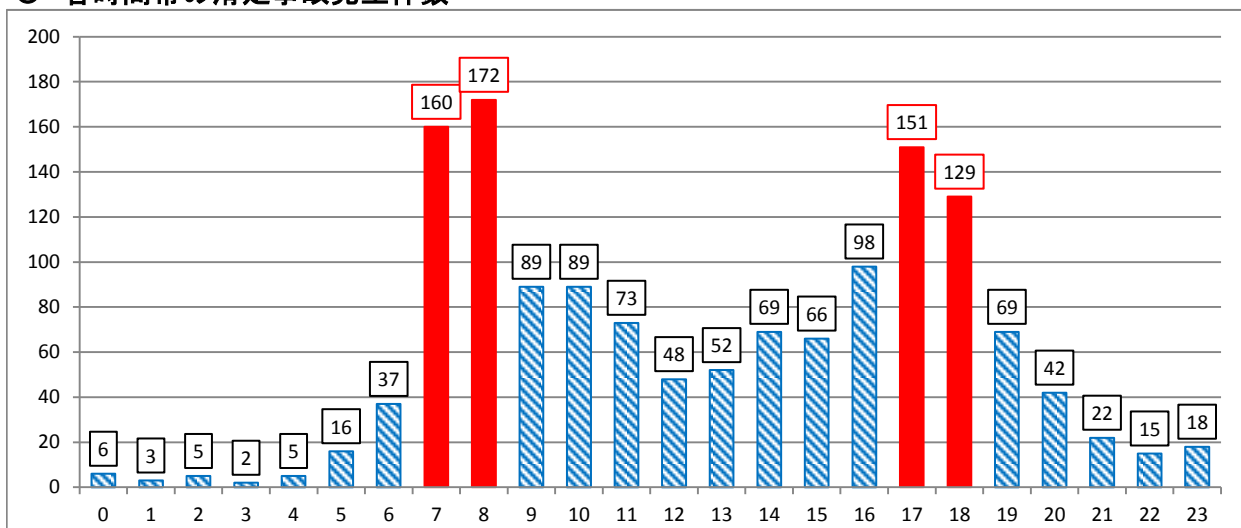
※注

- ・ その他衝突～追突、正面衝突以外の車両同士の事故（出会い頭衝突、側面衝突等）をいう。
- ・ 車両単独～工作物等への衝突、路外逸脱等をいう。
- ・ その他～車と歩行者との衝突などをいう。

◎ 時間帯別の滑走事故発生状況
 ○ 各時間帯の全事故に占める滑走事故の割合



○ 各時間帯の滑走事故発生件数



滑走事故の発生時間帯については、午前8時台が172件（12.0%）と最も多く、次いで午前7時台の160件（11.1%）、17時台の151件（10.5%）、18時台の129件（9.0%）と、朝夕の通勤時間帯の発生件数が多くなっており、これらの時間帯だけで滑走事故発生件数の42.6%と半数近くを占めている。

※注

- ・ 0時台とは、0:00から0:59までの時間をいう。（1:00の発生は1時台に含まれる。）

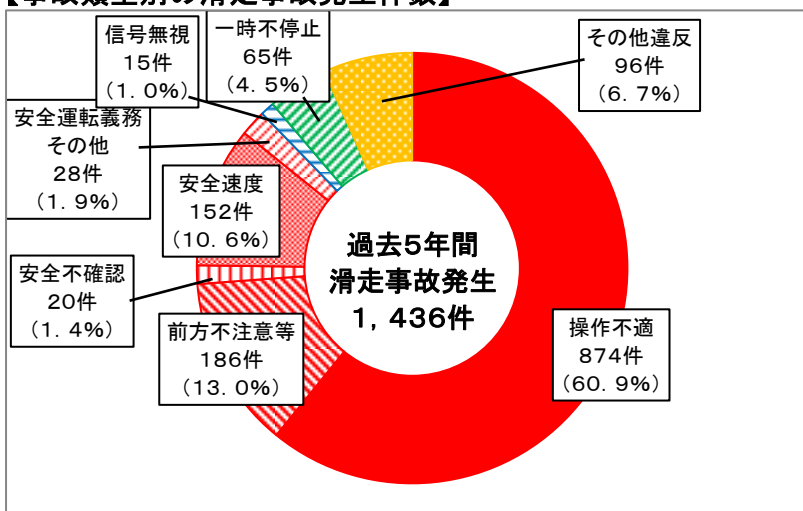
◎ 原因別の滑走事故発生状況

○ 全体

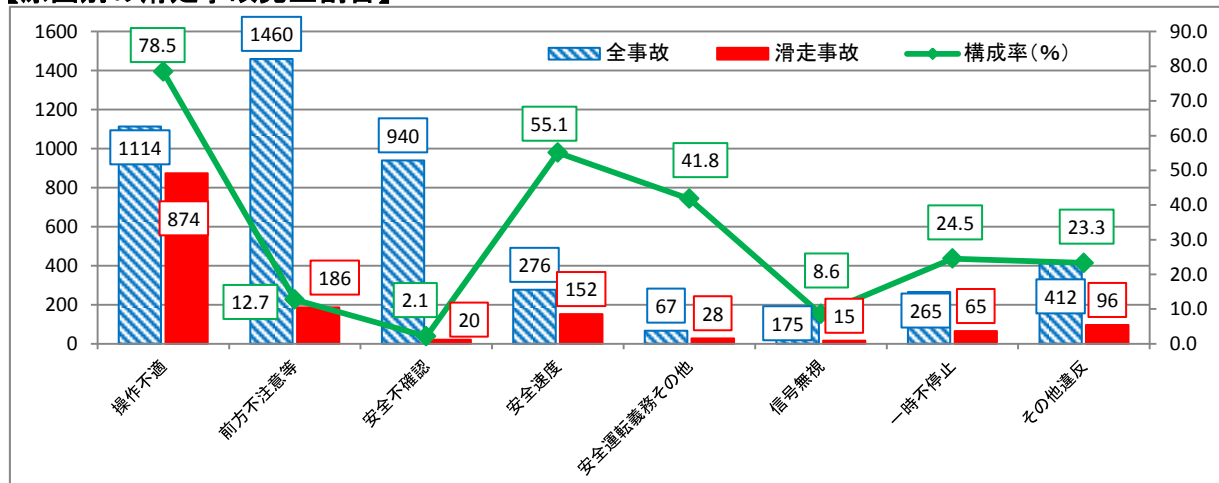
滑走事故の原因別で見ると、操作不適が874件（60.4%）と最も多く、前方不注意等186件（13.0%）、安全速度152件（10.6%）などの安全運転義務違反によるものが計1260件（87.7%）と大半を占めている状況である。

全事故件数では、前方不注意等によるものが最も多いが滑走事故の割合は低く、操作不適による事故の約8割が滑走事故となっている。

【事故類型別の滑走事故発生件数】



【原因別の滑走事故発生割合】



※注

- ・ 操作不適～ハンドル操作不適、ブレーキ操作不適をいう。
- ・ 前方不注意等～前方不注意、動静不注意をいう。
- ・ 安全運転義務その他～操作不適、前方不注意等、安全不確認、安全速度以外の安全運転義務違反をいう。